

# 僕の住民監査請求 第二部 惑乱篇

中 相作

またそんなことをやっておるのか

「世間には『歴史はくり返す』という言葉  
葉がありますけど」

「よく耳にしたりつかつたりしますね」

「でもあれはうそですからね」

「そうなんですか」

「君という人間が生まれて死んでいく」

「なんですもん縁起でもない」

「そんな君の人生はこの世界でただ一度  
だけ始まって終わるものなんです」

「それはそうでしょうね」

「君という人間はただひとりです」

「僕がふたりもいたら困りますから」

「他人の空似ゆうのはありますけど」

「それはたまたま似てるゆうだけだね」

「公明党の冬柴鉄三国土交通大臣が少年

警察官こまわり君に生き写しやとかね」

「そんな失礼な君。こまわり君ゆうたら  
漫画ですがな」

「こまわり君の線でゆうたら引退した伊

良部秀輝投手も負けてないんですけど」

「漫画はあかんゆうのだから」

「あそこまでそっくりやったらええんで  
すけどなかには困った人もいてまして」

「何が困るんですか」

「最近ではコムスンですか」

「例の介護サービスの会社ですか」

「不正経営をしてたゆうので厚生労働省  
からきついのかまされてましたけど」

「テレビで謝罪会見もやりました」

「あれがじつに困ったもんでしてね」

「なんですもん」

「あの会見で涙目になってた会長さんが  
絶対誰かに似てるんですけど誰に似てる  
のかももうひとつはつきりしないんです」

「どうでもよろしがなそんなこと」

「けど週刊誌とかインターネットでは誰

に似てるかゆう話題が花盛りでした」

「君とおなじように誰かに似てると感じ  
た人がたくさんいたわけですか」

「メタボリックシンドローム対策にビリ  
ーズブートキャンプを始めた主婦とおな  
じぐらいたくさんいてるでしょうね」

「たとえばややこしすぎますがな」

「それで松田優作に似てるとかスマップ  
の中居君とか雅楽の東儀秀樹さんとか」

「それやったら二の線やないですか」

「そうかと思うと『週刊文春』には『キ  
ン肉マン』に出てくるウォーズマンそっ  
くりやとか書かれてましたし」

「君なんの話をしてますもん」

「つまり君にそっくりな他人が存在して  
いたとしてもそれは君ではないんです」

「他人はあくまでも他人ですから」

「同様に何かの歴史ゆうのもこの世で一  
回だけ始まって終わるものなんです」

「それがどないぞしたんですか」

「つまり歴史がくり返されることはないんですけど似たようなできごとが新しく始まって終わることはあるんですね」

「なんやどうも理屈っぽいすな」

「要するに人間のやることは似たようなものになりがちなわけなんです」

「それはそうかもしれません」

「そうゆう意味ではんまに歴史はくり返すもんやと感心させられるんですけど」

「いったいなんの話なんですか」

「名張まちなか再生プラン」

「えらい回りくどいマクラでしたけどやっぱりその話題ですか」

「ほかに話題なんかありません」

「そしたら名張まちなか再生プランはどんな歴史のくり返しなんですか」

「見事なまでに『生誕三六〇年芭蕉さんがゆく秘蔵のくに伊賀の蔵びらき』とおなじことがくり返されてるんです」

「君あの話はまだ蒸し返すんですか」

「もう三年前のことになりますね」

「たしかに二〇〇四年に伊賀の蔵びらきという三重県の官民合同事業が伊賀地域でくりひろげられたわけですけど」

「惨憺たる失敗に終わった伊賀の蔵びらきの悪夢がいまここによみがえる」

「悪夢ゆうこともないでしょうけど」

「けど君まるで悪夢のようにおなじことがくり返されてるわけですから」

「どのへんがおなじですもん」

「最初に予算のばらまきがあつてそれを消化するためにつくられた官民合同組織が大騒ぎしたあげくわけのわからんままにすべてが終わつてしまふんです」

「まるつきり無茶苦茶ですがな」

「ほんま無茶苦茶なんですけどまず予算のばらまきについて説明しますとね」

「伊賀の蔵びらきの場合は街道フェスタと東紀州フェスタのあとが伊賀地域にばらまかれる番やつたゆうようなことで」

「北川正恭前知事が敷いたばらまきのルールをまんま踏襲した野呂昭彦知事が血税三億円をどぶに捨ててくれまして」

「そしたら名張まちなか再生プランの予算もやっぱりばらまきなんです」

「まちづくり交付金という名目で国が地方にばらまいてるんです」

「伊賀の蔵びらきより大規模ですな」

「二〇〇四年に都市再生特別措置法が改正されて自治体のいわゆるまちづくりを支援する交付金制度が創設されました」

「そしたら名張市もその交付金を活用したらええのとちがうんですか」

「けどこの制度には批判もありまして」

「どこがあきませんねん」

「支援の対象が土木建設事業のレベルですからまったく旧態依然やないかと」

「昔ながらの発想やゆうことですか」

「全国の地方がこまで衰退したのは規制緩和をはじめとした国政の重大な過誤の結果であるという指摘もありますし」

「旧態依然とした国の政策では地方を再生することはできないゆうわけですか」

「ただでさえ国から分配されるお金が減つてきてる名張市が国の交付金にすぎつくのはようわかるんですけど」

「たとえばばらまきであつてもそれをうまく利用することはできないもんですか」

「それもまたおなじことなんです」

「何がおなじことですもん」

「あの悪夢がよみがえる」

「それはもうええから」

「伊賀の蔵びらきるときも僕は事業の準備段階で指摘してたんですけど」

「指摘といいますか悪口といいますか」

「ばらまかれる予算を有効につかえるだけの知恵のある人間がおるのかと」

「君そんなぐあいに頭から決めつけたらあきませんか」

「お役所の人たちのレベルは重々承知してますけど地域住民があれやぞと」

「あれやぞだけではわかりません」

「あほやぞと」

「あほあほゆうなゆうとるやろ」

「けど伊賀の蔵びらきの旗のもとにつどつたのはおのれの趣味や道楽の延長上に一円でも多く税金をかき集めようという乞食みたいな連中ばかりでしたからね」

「乞食ゆうてもたら叱られますがな」

「それで何をやってくれたかゆうとご町内の親睦行事を寄せ集めることでして」

「事業の趣旨は伊賀の魅力为全国発信ゆうようなことでしたけど」

「実際にはせいぜい全国紙の伊賀版のエリア内に発信できた程度でした」

「残念ながらそんな印象でしたね」

「あれとおなじことをくり返してるのが名張まちなか再生プランなんです」

「どのへんがおなじですんねん」

「まず委員会組織です」

「名張まちなか再生プラン関連では名張地区既成市街地再生計画策定委員会と名張まちなか再生委員会がありますけど」

「伊賀の蔵びらき事業では二〇〇四伊賀びと委員会と『生誕三六〇年芭蕉さんがゆく秘蔵のくに伊賀の蔵びらき』事業推進委員会ゆうのが組織されました」

「なんや委員会だらけですな」

「これはもうお役所の病気なんです」

「どんな病気ですんねん」

「お役所の人たちは責任回避を第一義として仕事に励んでくれております」

「君がよく指摘することですけどね」

「責任回避のためやったら親でも平気で殺してしまいますからね」

「殺さへん殺さへん」

「いっぺんぐらい大義親を滅すゆうような気概で仕事してみたらどやねん」

「難しい理屈はいいですから先に進んでくれませんか」

「つまり責任回避のためにやたら委員会とかつくってしまうわけなんです」

「たしかに組織が複雑になったら責任の所在があいまいになりますからね」

「誰も何も考えません。ごくオートマチックにそうなってしまうんです」

「お役所では脊髄反射みたいにして委員会がつくられてしまうゆうことですか」

「委員の人選なんかでも自動的にぱたぱた決まってしまうすからね」

「人選の基準はあるのところがいいですか」

「それはお役所にとつて都合がいいとか御しやすいとかあるいはその人を選ぶことによつて委員会に箔がつくとか」

「そんな人ばかり集めた委員会で大丈夫なんですか」

「その答えは名張まちなか再生プランが如実に示しているというべきでしょう」

「いっつも大丈夫やないですがな」

「ですからわけのわからんことになって官民双方もう涙目になつてる状態なんですけど涙目といえればあの涙目の会長さんはほんまに誰に似てるんでしようね」

「知らんがなそんなこと」